

米空軍が、国防総省機密を漏らした兵士の所属部隊の情報を一時停止

Sputnik International

April 19, 2023



ワシントン (Sputnik) ——米空軍が、ペンタゴンの機密を漏らして告訴された兵士の所属する部隊の情報ミッションを、一時停止した。これは空軍兵士 Jack Teixeira に対する監察官の調査中に起こったものである。空軍報道官 Ann Stefanek が、スプートニクに対する声明で述べた。

「第 102 情報ウィングは、現在、その役割である情報ミッションを果たしていません。それは今、一時的に、空軍内部の他の組織に任務が移管されています」と、火曜日、ステファネックは言った。

ステファネックは加えて、空軍の Frank Kendall 長官は、空軍監察官に調査を命令し、その方針、行動、基準のおよその合意を取り決めたが、そこには国家安全保障情報の発表に関連して、第 102 情報ウィングにおける、部隊の環境や相互合意が含まれていると言った。

スプートニクの入手したメモによれば、空軍省の高位の指導者たちは、軍部全体のそれぞれの部隊に対して、次の 30 日間、安全保障を第一とする一時帰休を命令しようとしてい

る。それは、自己の安全保障という姿勢と行動を再確認し、各人がアクセスできる既知のベースが必要なことを確認するためであった。

メモは、このリークは、ウクライナの紛争に衝撃を与える可能性が大きく、そこには**同盟国やパートナーとのアメリカの関係**も含まれる、と言っている。

FBIは木曜日、21歳の米空軍国家警備隊員 Teixeira を、極秘の記録文書のリークに関与した容疑で逮捕した。米メディアの報道では、Teixeira は、ロシアによるウクライナ軍事作戦が始まった、2022年2月頃に、Discord 上で極秘文書を発表し始めた、と言っている。



米国防省トップ・シークレット一連の、オンラインでリークされた記録文書は、ワシントンの高度に極秘の軍事的分析のいくつかを暴露しつつあり、アメリカはその敵国だけでなく、同盟国についてもスパイ活動をしていることを示している。このリークは、この事態がアメリカの能力を危険に曝し、重要な国際的きずなを転覆させることを心配する、アメリカの高官たちの間に深い憂慮の火をつけた。

金曜日には、ボストンの連邦裁判所が Teixeira に、まだ正式でない拘束と、極秘情報の廃棄と譲渡を命じ、水曜日に予定されている公聴会まで、身柄を拘束すると言い渡した。

[訳者 Greatchain 注]

今度の大規模リーク事件が起こって、いかにアメリカが、国家的にうろたえているところに、陸自ヘリ事件が起こり、いよいよ一大事として、万事遺漏のないように神経質になっているか、その様子がこの翻訳からも伺えると思う。奥歯に物のはさまったような言い方を、推察していただきたい。これはアメリカにとっては、E・スノーデンやJ・アサンジ以来の、それ以上の大きなダメージだと思われる。こういうことは因果応報とか

終末とか言わなくても、自然の成り行きから見ても、起こるべくして起こったことに言
ってよい。

わが国に起こって 10 日以上になるが、まだ理由が解明されていない「陸自ヘリ失踪事
件」は、このアメリカの騒ぎに関係があるとは考えられない。アメリカ国防総省が、
同盟国をもスパイしていたことが、これでわかり、犯人が現役の空軍兵士で、彼の所属
部隊からリークされたことを考えると、その疑惑が濃くなると思う。これは、アメリカ
製の 100 億円以上もすると言われる、超高価なヘリコプターであり、そこに自己破壊装
置が組み込まれていないとは考えられない。ペンタゴンはこのリーク事件で頭が混乱し、
自衛隊のヘリコプターを破壊してしまったと考えられないだろうか？

「次々に落ちる米最新鋭戦闘機〈F-35〉—ペンタゴンの傷ついたプライド」という Sputnik
記事で、墜落事故がよく起こっていることがわかる。少なくとも、高級機だからめった
に起こらないという考えは、間違いであろう。

日本を含む米国の同盟国は、米戦闘機「F-35 ライトニング II」を購入している。だが
墜落事故やインシデントは後を絶たず、米国防総省（ペンタゴン）も、任務に就く準
備ができて「F-35」は、全体の 3 分の 1 としている。この地上最もコストの高い
戦闘機プロジェクトには、どんな問題がつきまとっているのだろうか？

「F-35」が開発されると、米軍だけでなく北大西洋条約機能（NATO）諸国や日本、
韓国などの同盟国も、ここぞと購入した。これまでに約 20 か国が契約済み、またはす
でに契約している。直近ではルーマニアが契約している。彼らが「F-35」を手にする
までには、8 年待たねばならない。

私の考えるもう一つの問題がある。昨今、心霊現象の話題が全盛を誇り、「呪物」といわ
れるものを誰でも知っているだろう。かつて私の遠い親戚にも、「妖刀」があって、この
存在に気づいて処分するまで、いつまでも不幸が続いた。兵器であっても、普通に大量
生産され、兵士に支給される銃などは問題がないかもしれない。しかし多数の人間が協
力して技術の粋を尽くし、莫大なカネをかけ、ただ一つの憎しみのために、美術品のよ
うな兵器を創り出すとしたら、そこには「怨念」が籠らないだろうか？ その物は憎い
敵に向かって発現するとは限らない。その兵器の制作者自身に向かうこともあれば、そ
の高価な構造物自体を破壊することもあるだろう。私にはわからないが、平和実現のた
めにその後者のようなことが、起こることを望んでいる。兵器は作れば作るほど、無駄
になるのがよい。

韓国のように、ウクライナに兵器を供与するのは善なる行いだと単純に考え、アメリカのあるコラムニストのように、「ウクライナ紛争を終わらせる最も簡単な方法は、プーチンを殺すことだ」(Die Welt) などと主張するような者は、淘汰されるべきである。

<https://www.rt.com/russia/574952-envoy-german-media-kill-putin/>